

あの日を忘れない

1991.6.3 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021.6.3

— 普賢岳噴火災害から30年 —

長崎県島原半島の雲仙・普賢岳の噴火活動で、死者・行方不明者四十三人を出した大規模な噴火発生から、六月三日で三十年を迎えた。当時、地元の高原市は災害対策基本法による警戒区域を全国で初めて市街地に設定。噴火は五年七月に及び、住民は長期の避難を強いられ、基盤の農業や観光業は大きなダメージを受けた。

噴火活動の開始は一九九〇年十一月十七日。普賢岳は一九八九年に眠りから覚め、火口にはマグマが固まった溶岩ドームが次々に現れた。九十二年六月三日午後四時八分、ドーム崩壊で発生した大規模な噴火が普賢岳東側の島原市北上木場地区を襲い、消防団員や警察官、報道関係者らが犠牲となった。九十二年六月二十三日には北東側の千本木地区で一人が亡くなった。



高温の火山灰や岩片が、熱風を伴って流れ下る火砕流の発生は九四三二回。堆積した灰や岩が雨が降れば土石流となつて田畑や集落を埋めた。その発生は六十二回。圧倒的な自然の猛威。一連の噴火の被害総額は二九九億円に上る。「平成新山」と命名された巨大なドームは活動が終息した今も崩壊の危険をはらんでいる。

火砕流は時速一〇〇キロメートル、温度は約七〇〇度。発生してからは、もちろん逃げることはできない。当時、火砕流の恐ろしさは一般に広く知られておらず、人々の間に油断があったことも被害を大きくした原因の一つであるだろう。災害発生から三十年。この間にも多くの生前災害が発生し、災害

この三十年、地域は復興に向けて走ってきた。土石流の岩や土砂は宅地のかさ上げや沿岸の埋め立て、農地の石垣に用いられ、山麓に誕生した公園は季節の花で彩られる。住民の暮らし、命を守る砂防ダムや導流堤は昨年度末までに完成。危険なエリアでも遠隔で重機を操る「無人化施工」の技術はここで生まれ、北海道・有珠山の噴火や熊本地震の際も活用された。

への危機管理という面では、大きな発展を見せている。けれども、最も大切なのは、そこに生きる人々の意識。如何に自然災害と向き合い、その都度、次に活かしていくかが問われている。

島原半島は二〇〇九年、ユネスコの世界ジオパークに認定された。古来の噴火でできた地形や地質、温泉や湧き水などの恵み。人々は火山とともに生き、年月を重ねている。火山との「共存」。噴火災害の脅威を私たちは決して忘れてはならない。



令和3年度 2学期行事予定	
8月 23日	始業式
8月 24日	実力検査①②
8月 24日	体育祭特別時間割(2日)
9月 3日	体育祭予行
9月 4日	体育祭
9月 6日	振替休日(体育祭)
9月 10日	進学推薦委員会
9月 10日	基礎製図検定
9月 13日	マナーアップ週間(16日)
9月 14日	就職出陣式③
9月 16日	就職試験開始
9月 17日	就職一年前集会②
9月 19日	振替休日(9月19日)
9月 20日	授業日
9月 20日	第3回学校見学会
9月 23日	第2回学習委員会(25日)
9月 24日	振替休日(9月20日)
9月 26日	全商情報処理検定
9月 26日	第2回実用英語技能検定
9月 26日	中間検査(16日)
9月 28日	球技大会
10月 1日	球技大会
10月 7日	薬物講話①②
10月 17日	情報処理技術者検定
10月 18日	瓊浦祭特別時間割(29日)
10月 18日	マナーアップ週間(22日)
10月 20日	献血(21日)
10月 26日	自動車学校入校説明会③
10月 28日	私学振興大会
11月 2日	瓊浦祭(3日)
11月 4日	振替休日(瓊浦祭)
11月 8日	マナーアップ週間(12日)
11月 14日	全商電卓実務検定
11月 19日	計算技術検定
11月 26日	期末検査(1日)
12月 28日	全商ビジネス文書実務検定
12月 6日	マナーアップ週間(10日)
12月 7日	上級学校見学会①②
12月 10日	パソコン利用技術検定
12月 14日	進路ガイダンス②
12月 21日	出前講義①②
12月 22日	終業式
12月 22日	冬季補習(24日)

瓊浦

第1号

令和3年7月13日発行
瓊浦高等学校
住所 長崎市伊良林
2丁目13番4号
電話 826-1261(代)
FAX 820-5245



コロナ禍で県高総体をはじめ、多くの大会が中止を余儀なくされた昨年度。コロナの波は未だ止まず、今年度の県高総体も開催が危ぶまれたが、開会式の中止、無観客など多くの制限を設けながらも、何とか無事に六月五日から各会場で熱戦が行われた。

待たされた瞬間!!

県高総体 2年ぶりの実施

今年度、本校が獲得した優勝を三本、圧倒的な強さを見せつけ、団体のみならずシングルス、ダブルスでも上位を独占した男子バドミントン部。

個人競技においても多くの生徒が実力を遺憾なく発揮した。水泳部の竹野くん(機3B)は五十メートル、一〇〇メートル自由形の二種目で二位に入り、どちらの種目でも大会新記録の泳ぎ、一〇〇メートルにおいては県高記録を出すと素晴らしい成績であった。陸上部の井口くん(普1D)は八〇メートルで六位入賞、一年生ながら全国上位レベルの選手と互角に渡り合い、今後の可能性を大いに感じさせた。

今年度の高総体で、特に目を引いたのが女子生徒の活躍である。先に述べた、空手道部女子、女子ハンドボール部の優勝はもちろんだが、



「一秒を削り出せ」これは、箱根駅伝の名門、東洋大学の駅伝部のスローガンである。このスローガンが生まれた背景には、二〇一一年の箱根駅伝での敗戦がある。その年の箱根駅伝で往路優勝を果たした東洋大学は、復路で早稲田大学に逆転を許し、二十一秒差という僅差で総合優勝を逃した。二十人中の二十一秒差、それは一人当たりにして一秒を削り出すのだから。そのように考えた時、競技から離れている時間、すなわち日常の生活の中こそ、まだまだ見直すべき点があるのではないかとここに気づく。競技力の向上において、もちろん、体力面、技術面での成長は欠かせないけれども、それと同様に、あるいはそれ以上に必要不可欠なのが精神面での成長ではないだろうか。

普段の生活に目を向けよう。食生活に気を配っているか。睡眠はきちんと取れているか。さらには、正しい姿勢で行動しているか。授業中にきちんと頭を働かせているか。たとえば、夜中までゲームをしていて、睡眠があまり取れなかったとき。おそらく、一日や二日そんな日があったところで、大して影響はない。問題ないと思える人がほとんどだろう。でも、考えてみて欲しい。もしその日、しっかりと寝ていれば、あと二秒タイムが縮まっていたのかもしれない。大事な試合であと二秒取れたのかもしれない。後援というものは、その文字通り、後になって、つまりは物事が終わってからするものである。「あのときこうしておけばよかった」という思いは、誰にでも一度や二度と言わずあることだろう。そのような思いを少しでも出し出すように、普段から「一秒を削り出す」姿勢で、何事にも取り組んでほしいものである。

九大会ぶり十六回目の優勝を果たした空手道部女子。さらには、創部八年目で初の優勝旗を持ち帰った女子ハンドボール部。いずれの部もコロナ禍で練習時間の縮小、練習試合等の中止など例年以上に調整が難しい中、前評判通りの力を出し切り、見事に県大会優勝、インターハイへの切符を勝ち取って見せた。

その他の競技においても、「長崎に瓊浦あり」を存分に見せつける格好となった。準備が整った。空手道部男子、卓球部男子、バスケットボール部、卓球部女子、剣道部男子、柔道部女子、男子ハンドボール部、バドミントン部の六競技となった。優勝旗の本数こそ二年前の四本を下回ったものの、多くの競技で上位入賞を果たすなど、例年に勝るとも劣らない成績を残してくれた。

個人競技においても多くの生徒が実力を遺憾なく発揮した。水泳部の竹野くん(機3B)は五十メートル、一〇〇メートル自由形の二種目で二位に入り、どちらの種目でも大会新記録の泳ぎ、一〇〇メートルにおいては県高記録を出すと素晴らしい成績であった。陸上部の井口くん(普1D)は八〇メートルで六位入賞、一年生ながら全国上位レベルの選手と互角に渡り合い、今後の可能性を大いに感じさせた。

今年度の高総体で、特に目を引いたのが女子生徒の活躍である。先に述べた、空手道部女子、女子ハンドボール部の優勝はもちろんだが、

ベスト4に入った柔道、卓球部。初のベスト8となった女子バスケットボール部など多くの競技で本校女子の活躍は目覚ましいものであった。

四年後には創立百周年を迎える瓊浦高校。今年の結果を踏まえ、優勝旗の獲得本数は、四十九本県内二位となった。昨年の三年生の思いを引継ぎ、精一杯のパフォーマンスを見せてくれた選手たちに大きな拍手を送りたい。そして、これまでの偉大な先輩達の伝統をしっかりと受け継ぎ、次年度以降も存分に活躍をしていくことを願う。

「一秒を削り出せ」これは、箱根駅伝の名門、東洋大学の駅伝部のスローガンである。このスローガンが生まれた背景には、二〇一一年の箱根駅伝での敗戦がある。その年の箱根駅伝で往路優勝を果たした東洋大学は、復路で早稲田大学に逆転を許し、二十一秒差という僅差で総合優勝を逃した。二十人中の二十一秒差、それは一人当たりにして一秒を削り出すのだから。そのように考えた時、競技から離れている時間、すなわち日常の生活の中こそ、まだまだ見直すべき点があるのではないかとここに気づく。競技力の向上において、もちろん、体力面、技術面での成長は欠かせないけれども、それと同様に、あるいはそれ以上に必要不可欠なのが精神面での成長ではないだろうか。

普段の生活に目を向けよう。食生活に気を配っているか。睡眠はきちんと取れているか。さらには、正しい姿勢で行動しているか。授業中にきちんと頭を働かせているか。たとえば、夜中までゲームをしていて、睡眠があまり取れなかったとき。おそらく、一日や二日そんな日があったところで、大して影響はない。問題ないと思える人がほとんどだろう。でも、考えてみて欲しい。もしその日、しっかりと寝ていれば、あと二秒タイムが縮まっていたのかもしれない。大事な試合であと二秒取れたのかもしれない。後援というものは、その文字通り、後になって、つまりは物事が終わってからするものである。「あのときこうしておけばよかった」という思いは、誰にでも一度や二度と言わずあることだろう。そのような思いを少しでも出し出すように、普段から「一秒を削り出す」姿勢で、何事にも取り組んでほしいものである。

「意地の優勝」

まさにそんな言葉が似合う優勝劇だった。卓球部女子の中道さん(普2D)が、女子シングルスで見事優勝を飾った。男子の団体戦、シングルス、ダブルス、さらには女子の団体戦、ダブルスの優勝は全てライバル鎮西学院。彼女の優勝が、ライバル校の完全優勝を阻止した形となった。

瓊浦女子は部員数が少なく、団体戦での不利は明らかだった。そんな中、「自分は誰に当たっても必ず勝つ」という強い気持ちを持って臨んだ今年の県高総体。団体戦ではベスト4、ダブルスでは準優勝とどちらもライバル校である鎮西学院の選手を前に苦汁をなめさせられる結果となった。そして最後のシングルス。トーナメントの当たりが厳しく、四回戦で強豪選手と対戦となった。相手は、春季戦の王者。厳しい試合になるのは予想していたが、とにかく気持ちで負けないことを心掛けた。後で振り返ってみても、「技術的にはまだまだまだな部分が多かったけど、とにかく気持ちで勝つことができた」と語った中道。この試合を勝ちきると、

次の準々決勝では小学校時代からのライバルとの対戦。1セット目を大差で先取され、後が無い状態。負けムードが漂う中、そこから巻き返し、勝利した中道は、準決勝、決勝を勝ちきり、見事シングルスでの優勝を飾り、ライバル鎮西学院の完全優勝を阻止した形となった。



卓球部女子 シングルス 優勝!!

中道 普2D 萌花

次年度はインターハイが行われなかったため、今回が初めての挑戦となる。過去に全日本選手権など全国の舞台を経験しているが、全国大会では、まだ十分な結果を残せてはいない。インターハイへの抱負を尋ねると、「シングルス、ダブルスともに、一試合でも多く勝てるように頑張りたい」と語った中道。まだ彼女は二年生。まだまだ今後の可能性を大きく秘めている。全国の舞台でも強い気持ちを持って、強豪選手に立ち向かう姿を大いに期待したい。



悲願の初優勝!!

ハンド女子 結成8年目 初 県高総体優勝!!

春季選手権を制し、第1シードで迎える決勝戦。相手は清峰高校。まさに五年前の再現のようだった。

二〇一四年に同好会を発足させ、部に昇格した三年目の県高総体。前年の県新人戦を制し、春の春季選手権も優勝して、優勝候補の本命として迎えた県高総体決勝。重圧もあつて、なかなか本来の調子が出せず、自分たちのペースに持ち込むことができないまま試合はもつれ、延長戦に突入。清峰高校を相手に、接戦の末敗れ、初の県高総体優勝、インターハイの舞台に立つことは叶わなかった。

好選手が揃った今季、各種大会で優勝候補と言われてきたが、なかなか結果は出せていなかった。昨秋の県新人戦では、決勝で佐世保商業に敗戦。前評判では優勝候補筆頭でありながら、序盤からペースを握られ、後半に怒濤の追い上げを見せるも、一点差で準優勝という苦汁をなめる結果となった。



けれども、選手たちは、この敗戦を糧に、それまで以上に技術を磨くとともに、大舞台で力を発揮するという精神的な強さを鍛えてきた。その成果が表れた春季戦での優勝。そして、今大会での決勝までの戦いぶりであった。

清峰との決勝戦では、序盤から主導権を握ると、試合終了まで一度も相手にペースを譲ること無く、23-12という大差で快勝した。主将の吉武さんは、「圧倒的な差をつけて勝つというのが、大会前からの目標だったので、それを達成出来てよかった。瓊浦女子初のインターハイ出場というところで、とても嬉しく思っている」と県大会を振り返って感想を語った。

五年越しの優勝旗。そして、これまで先輩たちが届かなかったインターハイの切符を手にした瓊浦女子ハンドボール部。夏の全国初陣に向け、吉武さんは、「インターハイではベスト4が目標。この三年間の集大成として、全てを出し切れるように一生懸命頑張りたい」と目標を語った。瓊浦女子ハンドの歴史はまだ始まったばかり。これからどのような歴史を紡いでくれるのだろうか。彼女たちの活躍から目が離せない夏となりそうだ。

無限の可能性

陸上男子 井口愁斗 普1D 800mで6位入賞



陸上男子八〇〇メートルで、井口愁斗くん(普1D)が六位に入り、上位大会への進出を決めた。五月に行われた県選手権では、同種目で二位に入っており、高総体での活躍にも期待が掛かる中、重圧に打ち勝ち、見事な走りを見せた。予選、準決勝と危なげない走りでも唯一の一年生ながら物怖じしない走り、六位入賞。準決勝よりタイムは落ちたものの、自分から前に出る積極的なレース運びで、上位大会への切符をもち取った。同種目は長崎勢のレベルも高く、優勝した選手は先行行われた日本選手権のU20八〇〇メートルで優勝を果たしている。井口くんは一年生ながらそういった上レベルの選手とも互角に渡り合い、今後の可能性を大いに感じさせるものであった。高総体を振り返って井口くんは「初めての高総体では、まだまだ自分で納得のいく走りではなかった。特に北九州大会では、周りのレベルが高いのもあって、結果が出せなかったの悔しい」と感想を語ってくれた。



二週間後に行われた北九州大会では予選敗退となったものの、レース前半は先頭に立つて引つ張る持ち前の積極的な走りを見せ、顧問の山川先生からも「積極的でいいレースだった。また一年生なので、今後が楽しみ」と期待を寄せられる井口くん。今後の目標を聞くと、「タイムで言うとう、八〇〇メートルで二分五十三秒台。来年の高総体では目標タイムを突破し、インターハイで上位入賞を果たしたい」と語る井口くん。今後とも積極的な走り、チーム全体を大いに引っ張ってもらいたい。

バドミントン Badminton

(男子団体) **優勝** ▶6年連続 34回目 ※インターハイ出場

- 1回戦 瓊浦 3-0 西陵
- 2回戦 瓊浦 3-0 佐世保北
- 準々決勝 瓊浦 3-0 海星
- 準決勝 瓊浦 3-0 長崎北
- 決勝 瓊浦 3-0 佐世保実業

(男子ダブルス)

- 優勝** 棚原 蓮 (普3D)・宮川 友結 (普3D) ※インターハイ出場
- 準優勝** 田中 市之介 (普3D)・柳川 蓮 (普3D) ※インターハイ出場
- 3位** 梅井 智哉 (普3D)・濱野 夏揮 (普3D)
- 櫻井 煌介 (普2D)・南本 和哉 (普2D)
- ベスト8** 西村 陽翔 (普2D)・森阪 直弘 (普2D)
- 奥野 天斗 (普2D)・縣 涼介 (普2D)
- 小林 遥輝 (普3D)・井手 悠太 (普3D)

(男子シングルス)

- 優勝** 田中 市之介 (普3D) ※インターハイ出場
- 準優勝** 栗山 寿一 (普2D) ※インターハイ出場
- 3位** 宮川 友結 (普3D)
- 櫻井 煌介 (普2D)
- ベスト8** 縣 涼介 (普2D)
- 奥野 天斗 (普2D)
- 小林 遥輝 (普3D)

(女子団体) **ベスト8**

- 2回戦 瓊浦 3-1 佐世保西
- 3回戦 瓊浦 3-2 長崎北陽台
- 準々決勝 瓊浦 0-3 諫早商業

(女子ダブルス)

- ベスト8** 本田 葵菜 (普3B)・佐藤 佳子 (情3B)

柔道 Judo

(男子団体) **ベスト8**

- 2回戦 瓊浦 5-0 吉岐商業 準々決勝 瓊浦 1-2 長崎東

(男子個人)

- 60kg級 **優勝** 橋本 龍治 (普3D) ※インターハイ出場
- 3位** 平山 楓海 (普2D)
- 81kg級 **優勝** 松田 基裕 (普3D) ※インターハイ出場
- 90kg級 **3位** 佐藤 蒼太 (機3C)

(女子団体) **3位**

- 1回戦 瓊浦 2-0 創成館 準決勝 瓊浦 0-3 五島

サッカー Football

- 2回戦 瓊浦 1-1 大村 (PK2-3)

卓球 Table tennis

(男子団体) **準優勝**

- 2回戦 瓊浦 3-0 長崎鶴洋
- 3回戦 瓊浦 3-0 大村工業
- 準々決勝 瓊浦 3-1 諫早
- 準決勝 瓊浦 3-1 鹿町工業
- 決勝 瓊浦 0-3 鎮西学院

(男子ダブルス)

- ベスト8** 岩波 栞樹 (普3A)・辻 悠太 (普2A)
- 菅 正直 (普3D)・田中 諒 (普2D)
- 阿比留 子龍 (機3A)・坂本 蓮 (普1D)

(男子シングルス)

- ベスト8** 阿比留 子龍 (機3A)

(女子団体) **3位**

- 2回戦 瓊浦 3-0 大村
- 3回戦 瓊浦 3-1 長崎工業
- 準々決勝 瓊浦 3-1 口加
- 準決勝 瓊浦 1-3 鎮西学院

(女子ダブルス)

- 準優勝** 中道 萌花 (普2D)・田川 優月 (普2D) ※インターハイ出場

(女子シングルス)

- 優勝** 中道 萌花 (普2D) ※インターハイ出場

令和3年度 長崎県 高等学校 総合体

Inter-High School Championships of NAGASAKI pref

主な結果一覧

陸上競技 Athletics

- 100m **5位** 山崎 一沙 (機3C) 10.90 ※北九州大会出場
- 800m **6位** 井口 愁斗 (普1D) 1:58.90 ※北九州大会出場
- 1500m **4位** 入濱 輝大 (普3A) 3:58.00 ※北九州大会出場
- 5000m **5位** 入濱 輝大 (普3A) 14:58.96 ※北九州大会出場
- 3000mSC **2位** 出口 凛太郎 (情2A) 9:34.39 ※北九州大会出場
- 6位** 小宮 尚栄 (普3D) 9:44.43 ※北九州大会出場

ボクシング Boxing

(団体) **準優勝**

(ピン級)

- 優勝** 山下 真寛 (機3B)

(ライト級)

- 2位** 松尾 優樹 (普3B)

(フライ級)

- 3位** 富永 凌矢 (普3B)

(ライトウェルター級)

- 2位** 古川 雄大 (情3B)

バスケットボール Basketball

(男子) **ベスト4**

- 2回戦 瓊浦 94-76 海星
- 3回戦 瓊浦 87-69 対馬
- 準々決勝 瓊浦 69-60 島原工業
- 決勝リーグ 瓊浦 57-86 長崎西
- 瓊浦 58-112 西海学園
- 瓊浦 70-99 佐世保工業

(女子) **ベスト8**

- 2回戦 瓊浦 80-42 大村
- 3回戦 瓊浦 85-62 長崎東
- 準々決勝 瓊浦 53-77 鎮西学院

ハンドボール Handball

(男子) **3位**

- 準々決勝 瓊浦 33-12 長崎南
- 準決勝 瓊浦 20-21 長崎工業

(女子) **優勝** ※インターハイ出場

- 準々決勝 瓊浦 18-8 長崎日大
- 準決勝 瓊浦 22-7 佐世保西
- 決勝 瓊浦 23-12 清峰

ソフトテニス Men's Soft tennis

(男子団体)

- 1回戦 瓊浦 3-0 北松農業
- 2回戦 瓊浦 1-2 西彼農業

水泳 Swimming

(男子団体) **9位**

- 50m自由形 **2位** 竹野 友貴 (機3B) 0:23.60 ※大会新
- 100m自由形 **2位** 竹野 友貴 (機3B) 0:52.08 ※大会新 県最高
- 200m個人メドレー **4位** 川口 奏 (情3B) 2:18.32
- 400m個人メドレー **2位** 川口 奏 (情3B) 4:58.69
- 4×100mフリーリレー **7位** 福井 奏夢 (普1A) 川口 奏 (情3B) 竹野 友貴 (機3B) 高尾 響 (普2B) 3:51.66

(女子団体) **6位**

- 100m自由形 **2位** 釜田 莉鈴 (普3C) 1:02.10
- 200m自由形 **3位** 釜田 莉鈴 (普3C) 2:18.11
- 5位** 村川 樹桜 (情3A) 2:23.99
- 400m自由形 **6位** 村川 樹桜 (情3A) 5:09.25
- 200mバタフライ **5位** 原田 遥奈 (情2A) 3:07.61
- 4×100mフリーリレー **3位** 釜田 莉鈴 (普3C) 坂本 琴海 (普2D) 中道 愛心 (情1A) 村川 樹桜 (情3A) 4:23.09
- 4×200mフリーリレー **5位** 釜田 莉鈴 (普3C) 坂本 琴海 (普2D) 中道 愛心 (情1A) 村川 樹桜 (情3A) 9:48.92
- 4×100mメドレーリレー **7位** 坂本 琴海 (普2D) 中道 愛心 (情1A) 村川 樹桜 (情3A) 釜田 莉鈴 (普3C) 5:03.21

高等学校 育大会

nships of NAGASAKI pref

団体は全結果、個人はベスト8以上

空手道 Karate

(男子団体組手) **準優勝**

(男子個人組手)

- 2位** 江島 光輝 (機3A) ※インターハイ出場
- 3位** 村野 颯太 (機2C)

(女子団体組手)

- 優勝** ▶9大会ぶり 16回目 ※インターハイ出場

(女子個人形)

- 優勝** 荒木 うらら (普3A) ※インターハイ出場
- 3位** 川下 怜華 (普2B)

(女子個人組手)

- 優勝** 山田 紫月 (普3A) ※インターハイ出場
- 2位** 荒木 うらら (普3A) ※インターハイ出場
- 3位** 大坪 亜衣 (情2A)

バレーボール Volleyball

(男子) **ベスト8**

- 2回戦 瓊浦 2-0 佐世保工業
- 3回戦 瓊浦 2-1 諫早農業
- 準々決勝 瓊浦 0-2 佐世保南

(女子)

- 1回戦 瓊浦 2-0 佐世保東翔
- 2回戦 瓊浦 0-2 島原

剣道 Kendo

(男子団体) **3位**

- 予選リーグ 瓊浦 4-0 佐世保工業
- 瓊浦 3-1 長崎日大
- 瓊浦 5-0 長崎工業

決勝トーナメント

- 準々決勝 瓊浦 1-0 五島
- 準決勝 瓊浦 0-3 長崎南山

(女子団体) **3位**

- 予選リーグ 瓊浦 5-0 吉岐
- 瓊浦 2-1 大村

決勝トーナメント

- 準々決勝 瓊浦 2-1 長崎南
- 準決勝 瓊浦 0-4 西陵